

相模原インターチェンジ周辺新拠点まちづくり事業に係る サウンディング型市場調査の結果概要を公表します

相模原インターチェンジ周辺新拠点まちづくり事業の検討に当たり、新たな拠点の形成に向け、民間事業者等と連携した施設の設置・運営、地元組織との連携などについて、幅広いご意見・ご提案をいただくための「サウンディング型市場調査」を実施いたしましたので、その結果を公表します。

1 実施経過

平成 30 年 12 月 3 日（月） 実施要領の公表

平成 30 年 12 月 19 日（水） 事前説明会の開催 【参加団体：15 団体】

平成 31 年 1 月 21 日（月）～25 日（金） 対話の実施 【参加団体：7 団体】

2 調査内容

- （1）事業への提案について
- （2）事業への参入可能性について
- （3）希望する整備・運営手法について
- （4）地域貢献の提案について

3 主な意見

別紙のとおり

4 今後の予定

今回のサウンディング型市場調査の結果を踏まえ、新たな拠点の形成に向けた検討を進めていきます。

< サウンディング型市場調査 対話結果意見概要 >

1. 事業への提案について

【集客力や収益性といった観点からの金原地区のポテンシャルについて】

- ・潜在的なポテンシャルは高い。(首都圏への近接性、圏央道などの交通利便性、リニア車両基地、豊富な地域資源など)
- ・総合的な観光拠点としての「道の駅」を目指すのが望ましい。
- ・サイクリストのメッカとしてのイメージ戦略

【効果的、効率的な集客や維持管理の観点からの小さな拠点の規模・機能の妥当性、改善点について】

- ・施設規模は概ね妥当
- ・三角形の敷地形状を踏まえた配置計画が重要。集客力のある配置計画の提案が可能
- ・生活利便施設と地域交流施設の維持管理を一体的に行うことができれば効率的

2. 事業への参入可能性について

- ・企画段階から地元と連携し、企画、基本・実施設計、監理業務、運営支援を担う。
- ・多岐にわたる業務を単独事業者で行うのは困難であり、専門事業者の共同事業体を構築し総合的に実施することが考えられ、代表企業や構成企業として参加検討は可能
- ・地元組織は、地元ノウハウを最も発揮できる「産直販売・物販販売・加工施設」の構成企業や主たる出荷者として業務を担うことが考えられる。
- ・建物所有者の誘致、テナントの誘致、管理体制の構築を行う。

3. 希望する整備・運営手法について

- ・民設民営、公設民営、事業用定期借地、リース方式など
- ・グループ参入する場合は、代表企業、設計企業、建設企業として参画、構成員は維持管理企業、運営事業者(生活利便施設、地域交流施設)
- ・地元農業者、各種ショップとのグループ参入可能

4. 地域貢献の提案について

- ・地元雇用
- ・Uターンや都市からの新たな担い手の確保
- ・施設利用料の地元優遇
- ・地場の農産物の販売による農業の活性化、白イチジクのブランド化
- ・農業IoTの実証の場としての活用
- ・観光の情報発信による観光資源の安定した利用促進
- ・宅配便ロッカーの設置
- ・電気自動車用充電器設置
- ・太陽光発電の設置
- ・防災備蓄品サービス
- ・防犯カメラの設置
- ・路上機器を活用した公共表示